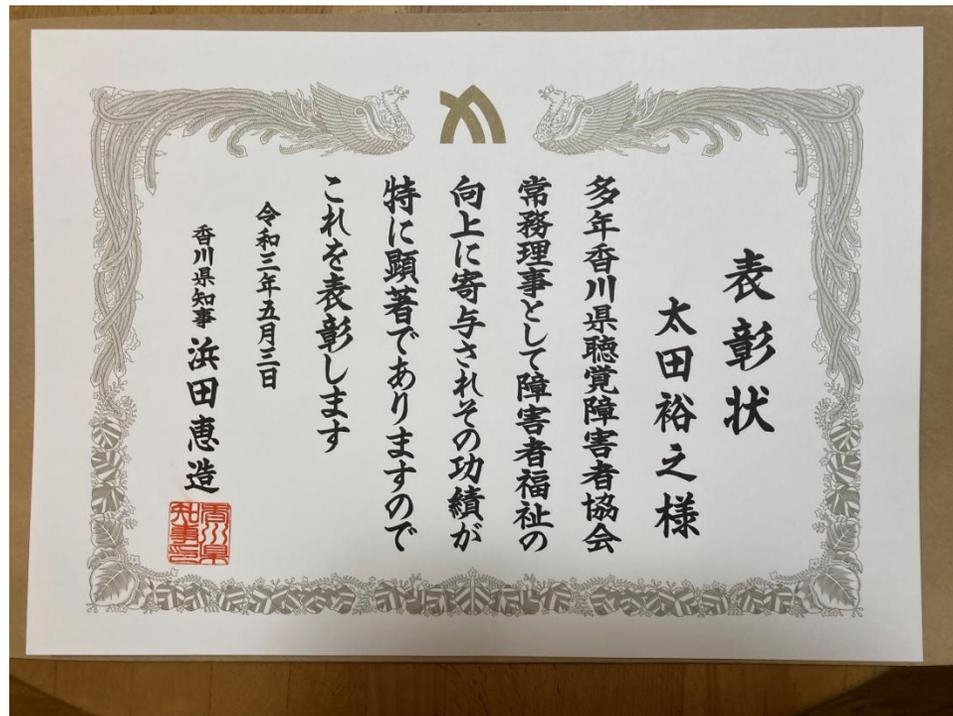


私の歩んできた道～出会い・ことば～

手話の原点は、「手話サークル雑草の会」



小学生の卒業文集「大人になったら 刑事になりたい」

中学3年生の高校進路「平凡なサラリーマンになりたい」

そんな私がなぜ？

聞こえない人の世界で手話通訳などの仕事をする事になったのか？

私の人生に大きな影響を与えた人「最初の一人が出発点」

中学3年時の担任

高校進学の見路指導の言葉が許せなかった！

「普通科は、ホワイトカラー」 → 背広を着たサラリーマン

「工業科は、ブルーカラー」 → 作業服労働者

この言葉に反発して高松工芸高校建築科に進学

担任からは、私立高校の説明もなく受験できなかった。

私の人生に大きな影響を与えた人「二人目福祉の出発点」



受章)

橋本祐子先生

元日本赤十字社青少年課長

(アジア初、女性初のアンリー・デュナン章を

高校2年の春休み

1週間神奈川県茅ヶ崎での研修

「全国青少年赤十字高校生スタディーセンター」

ボランティア(福祉)活動は、自分のライフワークにしなればと考えるきっかけになった。

橋本先生の心に残った言葉

「奉仕は、人生の家賃」

人は人に支えられて生きている。関わったすべての人に恩を返すことはできない分、自分が住んでいる社会に還元するのだ。これがボランティアの本質である。

「奉仕とは、余計に持っているものをあげることではない。分け合うことだ。」

「奉仕って何ですか。余計に持っているものをあげることですか。違うでしょ。分け合うことではないのですか。」橋本先生は、中国から日本に引き揚げる汽車の中で、屋根もなく寒い中、乗り合わせた数十人が持っていた小さな布を集め、縫い合わせて屋根代わりにして身を寄せ合って風雨をしのいだ経験があった。

橋本先生の心に残った言葉

「できるかできないかではない。したいかしたくないかである。」

「やりなさい」とは言わない。強制されたら奉仕ではないからだ。

「明日は今日つくられる。」「苦しみのない喜びは三流品」

挑戦する。やってみるということは素晴らしいこと。下手でも何でもいい。今日つくったその一歩が明日(未来)をつくる。またその一歩の苦しみを乗り越えられるから本物の喜びが生まれる。

「私の世界地図は、人でできている。」

世界中に赤十字の知人を持ったことで、私の遺産は人であり、次世代につなげば輪は広がる。

橋本先生の心に残った言葉

「語学は平和の武器」

平和の実現には言葉が大事だ。人と人を結び、理解し合うためのツールである。

このスタディーセンターで1週間は、他にも世界で活躍している多くの先生方から沢山のことを学び、自分の生き方を見つめる大きなきっかけになった。

この時から福祉に大きな関心を持つようになった。

私の人生に大きな影響を与えた人「三人目手話の出発点」

ろう青年Fさんとの出会い・手話

高校3年の夏休み 「第1回わたぼうしコンサート」

体育の教員から頼まれて

車いす介助ボランティア → ろう協青年部も参加

行き帰りの送迎バスの中で(行き帰り同じ席)

隣に座っていたろう青年 → 初めて手話を見る

その後、街で度々出会う → **自分の手で直接話したい**

ろう青年Fさんとの出会い・手話との出会い



橋本祐子先生との出会い



中学3年時担任の「ことば」

中学3年生～高校3年の青春時代に出会った人やことば
それが私の人生に大きな影響を与えた。

高校卒業後は、建築設計事務所で建築設計の仕事



18歳 香川県青年赤十字奉仕団を結成
手話サークル「雑草の会」入会当日に会計係
翌年から会長になった



20歳 手話通訳に登録、通訳活動や養成講座講師
21歳 二級建築士資格取得
設計事務所退職、福祉に関わる仕事がしたい



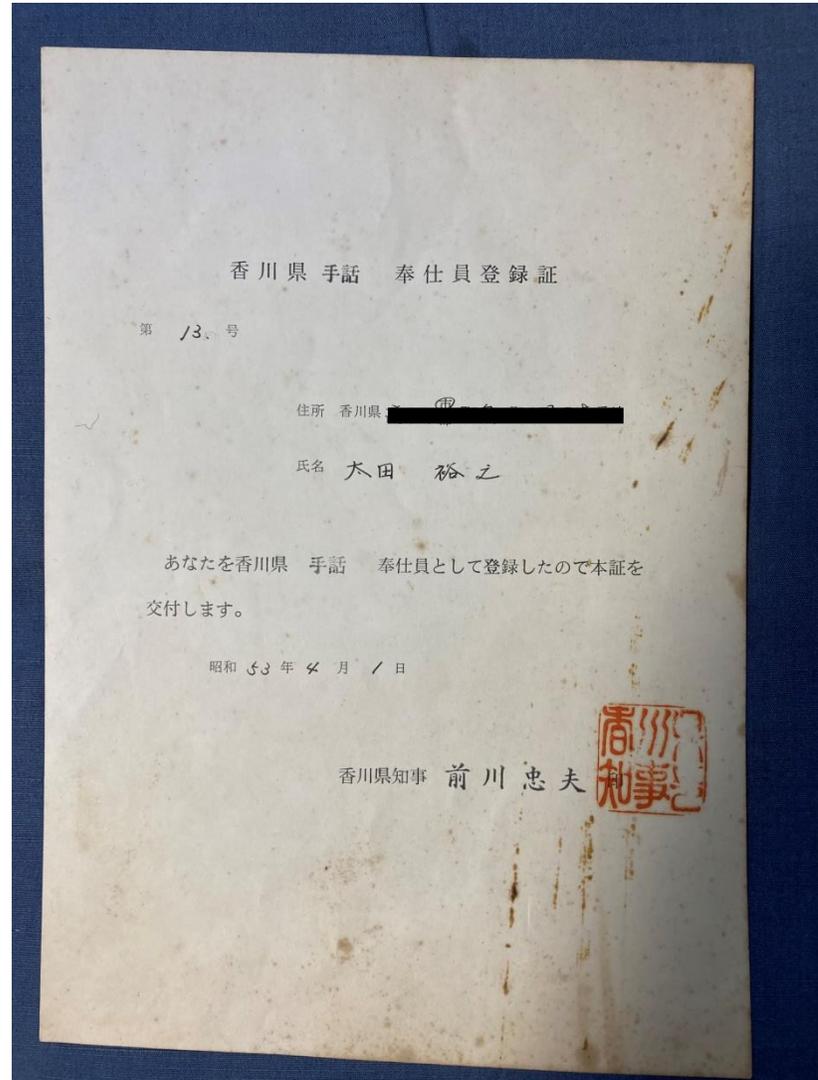
20歳頃 サークルのハイキング



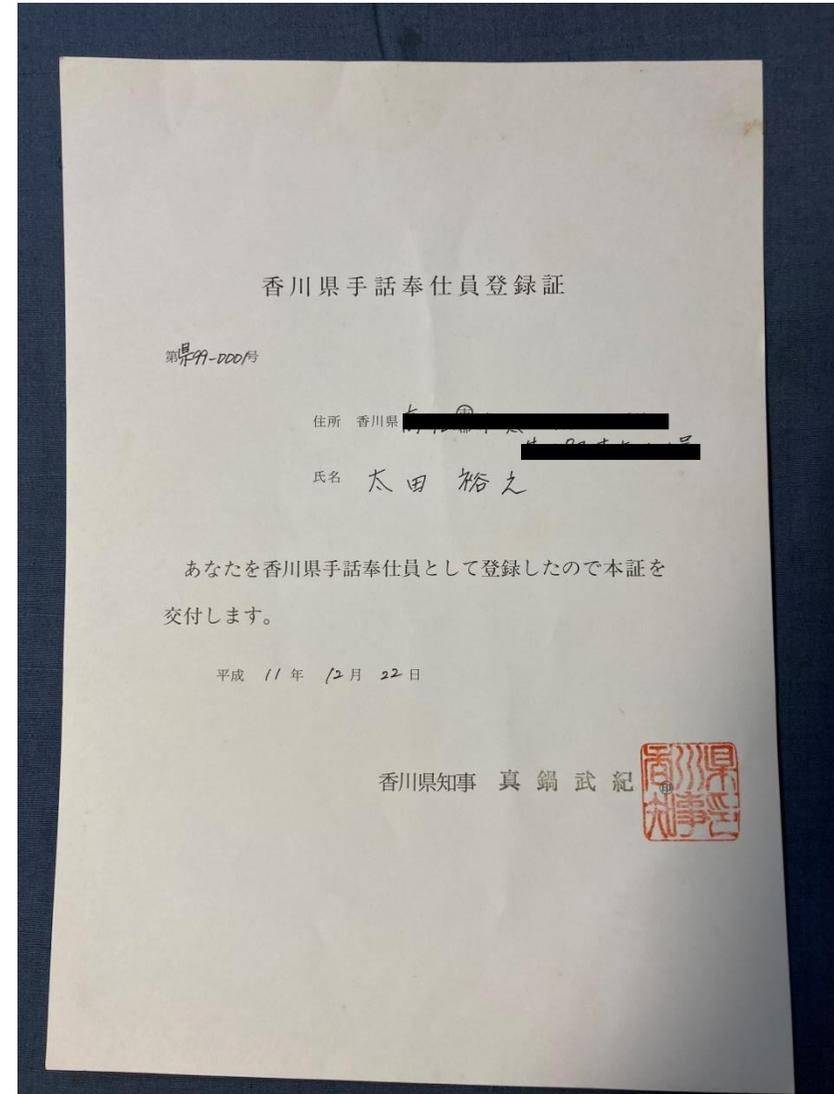
22歳頃 サークルの例会
(市民文化センター)



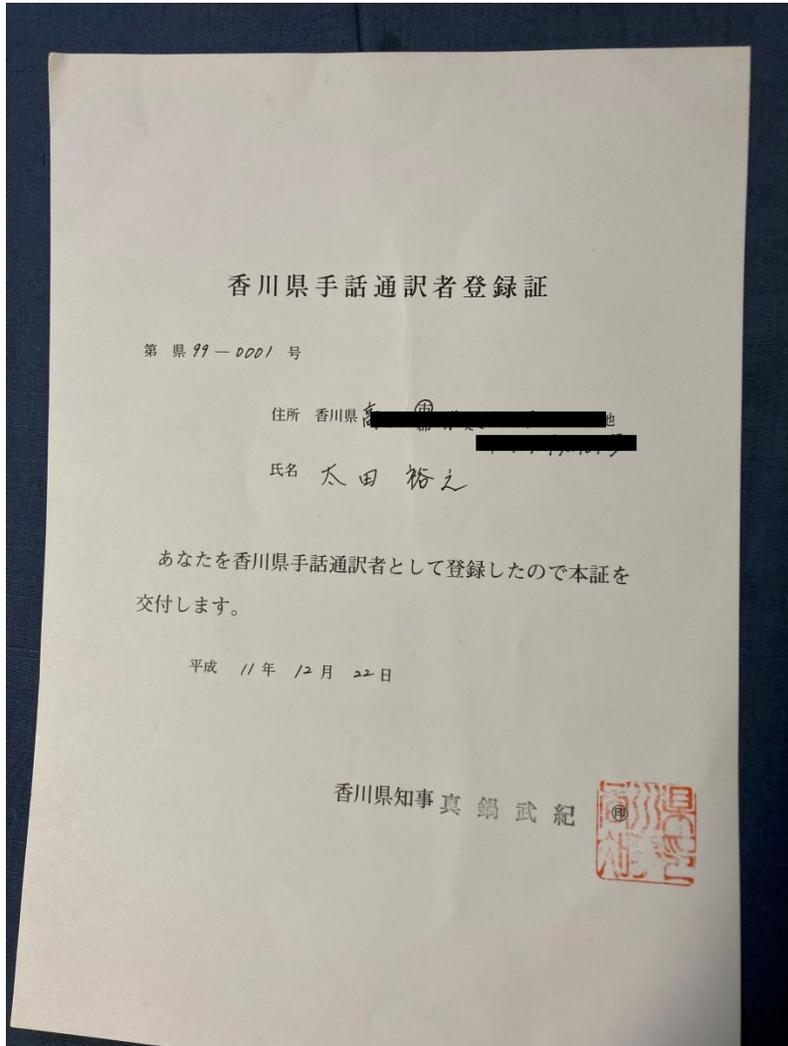
昭和56(1981)年国際障害者年 (高松市)



昭和53年手話奉仕員登録証(第13号)



平成11年制度改正後手話奉仕員登録証(第1号)



平成11年制度改正後手話通訳者登録証(第1号)



平成28年制度改正後現在意思疎通支援者証

会社を退職後、アルバイトしながら進学を目指す



22歳 日本赤十字社香川県支部から声がかかり入職
青少年赤十字の育成・ボランティア育成・災害救護
救急法・水上安全法など安全講習の指導

34歳 手話通訳士登録 香川県で第1号



35歳 香川県聴覚障害者福祉センター開設
社団法人香川県ろうあ協会に転職





日赤最後の仕事(退職日の四国新聞)



聴障センターで仕事開始(四国新聞)

なぜ、安定した職から不安定な仕事に転職したのか



年収で100万円減収

当時のろう協会長から職員人事の相談があった時に、
これでは運営できない！

転職する時に決めていた3つのこと

1. センターの運営がきちんとできるようにすること
2. 手話通訳派遣をいつでも、どこでも、どんなことでも利用できる制度を目指すこと
3. 手話や聴覚障害の理解を社会に広げること



聴障センター開所式(平成6年4月)

香川県要約筆記奉仕員登録証

第 253 号

住所

氏名 太田 裕之

あなたを香川県要約筆記奉仕員として登録したので、
本証を交付します。

平成16年5月11日

香川県知事 真鍋 武紀



聴障センターには、中途失聴・難聴者向けの事業を委託されていない。

全ての聴覚障害者の支援ができる施設でありたい。

手話と要約筆記は、何が違うのか？

勉強してみたくなった。

要約筆記奉仕員登録証

3つの目標の到達点は？



1. センターの運営がきちんとできるようにすること
財政は厳しいが概ね改善の目途はついた → 90%
2. 手話通訳派遣をいつでも、どこでも、どんなことでも
利用できる制度を目指すこと
手話通訳派遣も大きく前進、今では派遣できないものは
ほぼなくなった → 70%
3. 手話や聴覚障害の理解を社会に広げること
手話言語条例など大きく前進 → 70%



高松市の手話通訳派遣拒否裁判 (この裁判のきっかけも理不尽なことに反発)

今の課題は？



1. 手話通訳者の人材不足
手話通訳者の高齢化・日中活動できる人材の不足
2. ろう者の高齢化
ろう運動の担い手不足・手話指導者不足
ろう高齢者の生活支援
3. ICTの活用
スマートフォン・タブレット・パソコンの活用支援

終わりに

「ことば」は、人の考え方や生き方など様々な影響を与えている。

手話を学習している私たちは、「ことば」を大切にして欲しい。

手話 = ことば = 日本語

手話も丁寧に正確に表現することを心がけてください。

楽しんで手話学習・手話活動をしてください。

「継続は力なり」

おまけ！

挫けそうになった時は、初心を思い出そう！

→ なぜ？ 手話を学ぼうと思ったのか！

挫けそうになったことは、沢山あった。

- サークルの解散危機

- 高齢ろう者の泣きながら訴えている手話を伝えられない！

- センターで理不尽なことばかり

でも辞められない

いつも運動の先頭に立っている責任や信念！

→ そんな時は、いつもろう者の顔を思い浮かべた！